

桜の聖母短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

桜の聖母短期大学の概要

設置者	学校法人 桜の聖母学院
理事長	今泉 ヒナ子
学 長	上野 壽枝
A L O	佐藤 文子
開設年月日	昭和30年4月1日
所在地	福島県福島市花園町3-6

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語学科		80
生活科学科	福祉こども	70
生活科学科	食物栄養	50
	合計	200

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

桜の聖母短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育の目的・目標も明確であり、それらの学内への浸透、新しい時代に対応した点検評価も全学挙げて行っている。

教育の内容は体系的に編成されており、学生の多様なニーズにも対応している。教育方法、結果の評価方法も明らかにされており、教育内容や方法の改善も学生の授業評価により意欲的に行われている。

快適な教育環境の中、教員組織はよく整備され、教員は教育研究活動に意欲的であり、教育に重点を置いた活動が顕著で、設備・機器の活用も有効に行われている。図書館情報センターもよく整備され、学生も積極的に利用しているほか、地域や生涯学習センター受講者へも利用サービスを行い、学内外への図書館活動も活発に行われている。

単位認定方法は適切であり、単位取得状況には積極性がみられる。退学・休学・留年生への対応、資格取得への取組み、編入希望学生などへのケアが十分に学生顧問教員を中心に行われている。授業および卒業後の評価も、在学生、就職先、同窓会、編入先を対象に実施され、教員は授業の改善・向上に熱心に取組んでいる。食物栄養専攻の栄養士就職や、英語学科の英語をいかした就職率がますますの高率を上げ、就職先、編入先でも比較的高い評価を得ている。

学生支援は全般的に充実している。就職率も安定的な数字で推移している。「就職基礎能力証明書」の取得など積極的である。学生の学習・生活支援においても、「学生顧問制度」の体制を作り、教職員できめ細かく支援している。大学編入の状況、退学者の減少もその成果であると考えられる。

建学の精神「共に生きる教育」を重視し、独自の生涯学習センターを設置して、社会的活動を積極的に推進している。また全学的にボランティア活動を通じて地域社会に貢献し

ている。さらにアジア体験学習の旅や英語学科の短期留学制度を通じて国際交流にも取り組んでいる。

学長を中心とした教学組織は適切に運営され、機能を発揮している。法人運営も、理事長のもと適切に運営されている。

財務状況は良好といえる。

学則の規定に従い、自主的かつ定期的に自己点検・自己評価を実施している。また全教員が全部署の情報を共有でき、評価結果を年度途中からでも運営に反映させるよう工夫し、成果を活用できるよう配慮している。さらに相互評価の実施、生涯学習センターの外部評価の実施など、改革改善の努力が充分みられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

カトリックの精神が基盤となっている建学の精神、教育理念を学内挙げて常に点検評価し、それを教職員、学生に徹底的に周知させている。

評価領域 教育の内容

ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)や教員間の交流による授業改善が行われており、海外研修、TOEIC受験対策、福島市内の四年制大学・短期大学との単位互換や情報処理教育など積極的に学生のニーズに対応した教育をしている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

退学・休学・留年学生が少ないことに関しては、個々の学生の抱える問題の早期発見に努め、日常のきめ細やかな教育指導を行っている成果といえる。編入学先大学から卒業生の評価が高い点は、当該短期大学の教育効果であると評価できる。

評価領域 学生支援

教員は熱意を持ってきめ細かい教育活動を実施している。また、学生顧問制度を置き、専任教員が約20人の学生を受け持ち、学生の問題や悩みの相談に当たっている。学生顧問制度に加え、「ビッグ&リトル制度」といわれる上級生による下級生支援システムが整備されており、きめ細かく学生の支援を行っている。

評価領域 社会的活動

平成4年設置された生涯学習センターは、地域の生涯学習拠点として地域社会に貢献

している。本事業は平成15年度文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）（題名「生涯学習センター設置と公開講座の継続実施」）に採択された。

全学生1年次必修科目「ボランティアワーク」にも象徴されるように、建学の精神に基づいた全学的ボランティア活動により地域社会に貢献している。

評価領域 管理運営

理事長、学長自らによる、教職員に対する建学の精神を体現する運営体制ができている。

評価領域 改革・改善

平成11年、生活科学科が、翌年英語学科が相互評価を実施し、社会のニーズや学生の意向を把握して、時代の流れに的確に対応できるように改組に着手するなど、具体的に自己点検・評価に基づいて改善改革を行っている。

卒業生の就職先からの評価情報を収集し、教育内容・方法の改善に努めている。

（2）向上・充実のための課題

評価領域 教育の実施体制

シラバスの記述方法の統一など、一層の充実が望まれる。

評価領域 研究

今後は学会などでのより活発な研究発表が望まれる。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

設置母体であるカナダ国モントリオールにあるコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の創立者聖マルグリット・ブールジョワのカトリックの精神に根ざした建学の精神・教育理念であり、明確に確立されている。

教育の目的・目標は明確であり、新しい教育理念の下での教育目標を教授会、部科長会、学科会などで点検、検討して時代に即したものにしている。

理事長が先頭に立ち、教授会、部科長会、研修会など、挙げて教育目標、目的を理解させることに常時、多大の努力が払われている。学生に対しては建学の精神、教育目的などを掲載したハンドブックによりオリエンテーション、履修ガイダンス時に説明し教育目的・目標の浸透に努めている。

評価領域 教育の内容

各学科の教育目的、目標は適切であり、キリスト教学が必修であることにより建学の精神、理念が反映されている。教養教育、専門教育とも十分な内容であり、教員の配置も適切である。単位認定と評価も適切であり、教育改善は学生の満足度や意見を参考に意欲的に行われている。

免許、資格の取得が充分配慮されており、講義、演習、実習のバランスもよく、必修、選択のバランスもいい。卒業要件は適切であり、学生も理解しやすい。学生が充分希望と意欲を持って学習できる。

シラバスは毎年作成されており、授業の内容は充分理解できるものである。教育方法、

結果に対する評価方法も学生に明らかにされている。

学生による授業評価により授業改善が行われている。FDも委員会により活発に行われ、職員のSDも行われている。学生のやる気を起こさせる努力や教員間での授業内容の調整、意見交換なども行われている。

教育の内容は体系的に編成されており、学生の多様なニーズにも対応している。

評価領域 教育の実施体制

短期大学の教員は、教育研究活動に意欲的であり、授業や学生指導がきめ細かく行われている。また、全体の教員年齢構成もバランスがとれ、社会的活動にも力を尽くしている教員が多い。

校地・校舎は快適な環境に整備され、講義室、実験・実習室、パソコン室、LL教室も充足し、有効に活用されている。

図書館情報センターが整備され、毎日多くの学生が有効利用し、図書館職員とコミュニケーションをよくとり、図書館の利用実績を上げている。また、県立図書館における資料展示や生涯学習センター受講者および地域住民への利用サービスにも努めている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

単位取得は卒業要件単位で満足せず、積極的に多くの単位を取得させ、資格取得にも意欲的で資格取得希望者の取得率は高い。授業評価アンケートも、教員共通項目に各教員が独自のアンケートを2項目以上加えて実施し、改善向上に努力している。

退学・休学、留年生の数も少なく、事前のケアが充分行われ、編入学希望者への対応もマンツーマンで実施され、実績をあげている。

就職先からの評価や、編入学後の追跡調査を実施し、教育改善の指針の一つとしている。また、同窓会との連携で、在学中の教育・資格が役立っているかの確認や、情報収集、就職先の確保につなげており、教育効果の向上に積極的に取り組んでいる。

評価領域 学生支援

入学者に対するオリエンテーションもきめ細かく適切である。

学科別ハンドブックが作成されており、学習の動機付けとして効果を上げている。学力不足に対しても、習熟度・個別指導が行われ、また教員間の連携が組織化されている。

専任教員による学生顧問制度で、学生の学習・生活面での支援がきめ細かく行われて

メンタルケア、カウンセリングの体制も整っている。

学生顧問制度に加え、「ビッグ&リトル制度」といわれる上級生による下級生支援システムが整備されており、きめ細かく学生の支援を行っている。

就職・大学編入など、進路に関して積極的な支援が行われている。留学などについても個人指導を行うなど積極的である。

障害者支援として車椅子には対応しており支援体制は整っている。社会人学生への対応も充分行われている。

学生支援は全般的に充実している。就職率も安定的な数字で推移している。「就職基礎能力証明書」の取得など積極的である。

評価領域 研究

教員は教育業務、学生支援、会議などで研究時間が充分取れない状況であり、学会発表など評価を得られる機会が少ない。今後は、研究日の確保も含め、研究・研修体制の改善に取り組まれない。

評価領域 社会的活動

建学の精神「共に生きる教育」を重視し、独自の生涯学習センターを設置して社会人の受け入れに意欲的である。公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放も実施している。県、市など地域社会の行政、教育機関などとも効果的な交流活動を積極的に行っている。

共通科目の「ボランティアワーク」にも象徴されるように、全学がボランティア活動を通じて地域社会に貢献している。また学生のそうした社会活動を積極的に評価している。

留学生派遣は同時多発テロ以来休止していたが、平成16年度に再開し、アジア体験学習の旅を実施した。また英語学科の短期留学制度を通じて国際交流に取り組んでいる。さらに米国、カナダの2大学と姉妹校の提携を結んでおり、海外教育機関との密接な双方向交流を継続している。

評価領域 管理運営

理事長はリーダーシップを発揮し、理事会は法令・規程に基づき適正に運営されている。

教授会など教員組織は、改革改善の意義や必要性をよく理解、協力し、学長のリーダーシップのもと、適切に運営されている。

事務組織は小規模ながら整備されており、法人の政策に沿って、学生サービス、教育活動の補助としてよく機能している。今後は、企画・運営の中核となるよう一層の能力開発が望まれる。

人事については適切に管理運営されているといえる。就業時間管理、人事考課制度の導入などについて検討が望まれる。

評価領域 財務

予算編成の段階から、予算配布、執行手続きまで適切である。監事、公認会計士とも、監査機能は有効である。資金運用についても、コンサルタントを導入して安全性に配慮し、理事長に随時報告している。

施設設備については、規模と比較して十分な水準で、適切に管理されている。

財務状況は良好といえる。

評価領域 改革・改善

学則の総則第3条の規定に従い、平成5年の「過去10年間の動向」を初めとし、以来自動的に自己点検・自己評価を実施している。自己点検・評価報告書は、毎年教育推進・評価委員会が中心になって作成し、全教員に配布するほか、関係諸機関に送付するなど、情報公開に努めている。

平成17年度の点検・評価では全教員の関心と責任感を高めるために部科長会を通して各委員会に作業を依頼し、できるだけ多くの教職員が関わるように改善した。また各部署における年数回の自己評価および教授会での中間報告など、全教員が全部署の情報を共有でき、評価結果を年度途中からでも運営に反映できるよう工夫し、自己点検・評価の成果を活用するよう配慮している。

平成11年生活科学科が、同12年英語学科が相互評価を実施した。平成16年度には生涯学習センターが外部評価を受けた。相互評価は7年ごとに行われる認証評価の中間年に実施する予定である。また、外部評価は必要に応じて当該部署が外部の専門家を招いて実施している。このような積極的な努力がみられる。